

関西現代音楽交流協会 (KMMA)

第 53 回現代音楽作品の夕べ

2017 年 5 月 20 日 (土) 16:30 開演 (16:00 開場) トントレフ・ヒコ

主催：関西現代音楽交流協会 (KMMA) 協力：トントレフ・ヒコ

ご挨拶

本日は、関西現代音楽交流協会の演奏会「第 53 回現代音楽作品の夕べ」にお越し
くださり誠にありがとうございます。

当協会は、音楽文化の普及と発展に寄与することを目的に 1986 年に設立されま
した。今年で創立 31 年を迎えましたが、その活動は必ずしも順調であったわけでは
ありません。2001 年からの 4 年間は、出品・出演希望者が少ないために演奏会を開
催することができず、また会員数の減少が続いておりました。しかし、田中邦彦 前々
委員長による体制の刷新と、大澤弘之 前委員長による組織の整備、また内藤正彦 前
事務局長をはじめとする役員諸氏の尽力により、当協会の活動が社会的に一定の評
価を受けるようになりました。現在、作曲家と演奏家の会員数は合計 105 名（休会
者を除く）となり、積極的な活動を続けています。

本日の演奏会のプログラムは、作曲家会員と演奏家会員の相互の交流と協力、ま
た、会員以外の演奏家の方々の暖かい賛助によって構成されています。それぞれの
作品と演奏を通じて表現される魅力的な世界を、最後までお楽しみくだされば幸い
です。末筆ながら、本日の演奏会にお越しくださいました皆様の益々のご健勝とご
活躍をお祈りいたします。

関西現代音楽交流協会委員長
永田 孝信

プログラム

前田 正博 作曲

Duo for Flute and Alto Saxophone(2016)

フルート：大升 良美 アルトサクソフォーン：西本 淳

近藤 浩平 作曲

週末は晴れの予報

ピアノ：大山 由紀子

内藤 正彦 作曲

amore

ピアノ：大山 由紀子

ヤコポ ナーポリ 作曲

バリトンの為のヴォカリーズ：マサニエッロ哀歌

バリトン：安田 旺司 ピアノ：尾花 由佳

アルベルト ペイレッティ 作曲

クアジモートの詩による3つの歌曲より：水没したオーボエ

バリトン：安田 旺司 ピアノ：尾花 由佳

ディカプア&伊藤 康英 作曲

O SOLE MIO ～僕の太陽～

バリトン：安田 旺司 ピアノ：尾花 由佳

澤田 博 作曲

<木の歌 第3番>—独奏マリンバのための—(2017作曲・初演)

マリンバ：相澤 睦子

久保 英子 作曲

「ハバネラとハンガリアンダンス」(ピアノ独奏)

「猫のために」(ユーフォニアムとピアノ)

ピアノ：園田 文子 ユーフォニアム：川原 みきお

=休憩=

大升 良美 作曲

「緋色を。」

フルート：大升 良美

松浦 伸吾 作詩・作曲

『泡沫のみち』『緑』『絆うた』

テノール：松原 友 ピアノ：長澤 圭介

川合 清裕 作曲

ピトレスク -寺院- ～笙，チェロ，テューバのために～

笙：立木 貴也 チェロ：谷口 晃基 テューバ：藤田 敬介

岡田 正昭 作曲

Humoreske

ピアノ：江口 舞

演奏会終了後、ワイン小レセプションがございます(参加自由・無料)

前田 正博 作曲

Duo for Flute and Alto Saxophone (2016)

フルートのデュオを書くのは2回目です。前作はちょうど10年前、2006年のヴァイオリンとの曲です。なぜ今回アルトサクソとコラボしたか？この2つの楽器の演奏可能音域は約1オクターヴ（正確には長7度）の違いがあり、さらにそれぞれの楽器の音域が3オクターヴ半とかなり広い部分をカバーでき、両方で4オクターヴ半の音域を自由に使うことができるというのがひとつ、それからフルートはもともと木管楽器であるのですが、サクソは木管楽器に分類されてはいるものの、音色的には金管楽器に非常に近いものがあり、この両者のトーンカラーの違いで何か曲を作れないかと思いついたのが理由です。

作曲の素材となったのは「3095108」という数字です。何の数字か？別に電話番号でもなければキャッシュカードの暗証番号でもありません。夢の中で出てきた数字です。何の夢かは忘れましたが、起きてしばらくしてもこの数字が頭から離れませんでした。それでこの数を紙に書きとめて作曲の手がかりにならないかと模索しました。

まず数字を音に置き換えてピッチクラス値にしました。ピッチクラス値では0はC、1はC#、2はD、したがって3はD#（E♭）になります。それで7音の音列（O）を作り、さらにその逆行（R）、反行（I）、反行の逆行（IR）の各音列を作成し、それぞれの音列をA、B、C、Dとしました。それからそれらの音列を2つずつペアにして12の組み合わせを作り、そのペアをフルートとサクソの各パートに当てはめてみました。ただこの音列をそのままメロディーにしているわけではありません。例えば曲の最初の部分は2つの楽器がほぼ同じ音域で4音を一つのまとまりとして反復しているのですが、その反復の回数がそれぞれの数字の回数となっています。因みに0は10回を表しています。それは途中から同音の音の反復回数となり、その間にそれぞれの音列の音がアクセントで入ってきたりといういろいろです。そのほかテンポのゆっくりした部分、カデンツァ的な部分、特殊奏法を使った部分など、この音列とは直接関連のない部分もあります。特に終盤はこれらの音列からは解放されます。

この曲では短い音型の連続した反復を多くの部分で用いているので、いわゆるミニマルミュージック的な要素が強く、また2つの楽器が同じような音域で交錯したり、一方ではそれらが極端に離れた音域で動いたりと様々に変化もしています。最後は少し調性を意識している部分もあり、フルートのC dur、サクソのDes durというポリトナリティーのスケールで曲は終わります。

<作曲：前田 正博（まえだ まさひろ）>

大阪音楽大学音楽学部作曲学科（音楽学専攻）を卒業。卒業後より鈴木英明氏に師事。関西現代音楽交流協会、国際芸術連盟、日本音楽学会西日本支部にそれぞれ所属。1998年に関西現代音楽交流協会（KMMA）より出たCDに<5 movements for Quintet>を、2005年には国際芸術連盟より出た「21世紀日本歌曲の潮流 IX」に歌曲「鬱む」を、2007年には「21

世紀ピアノ音楽の領域 VI」に〈Piano Sonata No. 3〉を、また 2010 年には「現代室内楽の諸相 IV」に〈スケルツォ〉をそれぞれ収録。作品には〈Duo for Flute and Violin〉〈金管 4 重奏のための組曲〉〈Metamorphosis for Clarinet, Trumpet and Marimba〉〈Aubade (サクソフォーン 4 重奏のため)〉〈金管 5 重奏のための Rhapsodic dance〉〈Sonata for Oboe and Piano〉〈Sonata for Trumpet and Piano〉〈木管 5 重奏曲〉〈サクソフォーン 3 重奏のための組曲〉などがある。

〈フルート：大升 良美 (おおます よしみ)〉

愛知県立芸術大学卒業。2013 年リサイタル開催。

平成 23 年度関西現代音楽交流協会演奏賞受賞。現在、ソロ、室内楽、吹奏楽、オケと幅広く演奏活動する傍ら、中学、高校、専門学校等で後進の指導にあたっている。また、フルートカルテットのアレンジやオリジナル曲の作曲も手掛けている。

奈良県立高円高等学校、ESA 音楽学院各非常勤講師。関西現代音楽交流協会会員。

〈アルトサクソフォーン：西本 淳 (にしもと じゅん)〉

大阪音楽大学音楽学部卒業。同大学院修了。ノナカサクソフォンコンクール第 1 位。平成 18 年度坂井時忠音楽賞受賞。コンポージアム 2011～サルヴァトーレ・シャリーノの音楽、いずみシンフォニエッタ大阪第 34 回定期演奏会にて、Diana Rotaru「Shakti」のソリストを務める。

東京シンフォニエッタ、東京都交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団等と共演。大阪音楽大学特任准教授、相愛大学・武庫川女子大学講師。

近藤 浩平 作曲

週末は晴れの予想

「週末は晴れの予想」は、左手のための 2 つの前奏曲「東南東の風、草のにおい」作品 153 の 1 曲目にあたる。とてもシンプルなようで、それぞれの音域の推移に歌うような表情がある、バッハも意識しつつ、きわめて現代的な明るい晴朗さのあるプレリュードを書いてみようと思った。2015 年 11 月に大山由紀子さんが仁川のハッセルハウスでのサロンコンサートで初演。ギター編曲もあり、こちらは、ギターの為の 3 つの前奏曲「週末は晴れの予報」作品 155 という作品に含まれていて、2016 年 9 月アリゾナ州立大学での Kondo Festival で John Oeth さんのギターで初演されています。新緑の季節にもふさわしい小品。(近藤浩平)

内藤 正彦 作曲

a m o r e

幻想的な夢のつくり出す世界には、日常の出来事を忘れさせてくれる不思議な力があります。普段は気がつかないけれど、私たちはいつも何かに包まれている。そんなことを思い出させてくれるかのようです。

この曲は、長 2 度・長 7 度・短 7 度・完全 4 度・増 4 度の音程とその響きが全曲を支配し

ています。

完全4度を除き、一般には不協和かつ不安定とされる音程ですが、その響きは、三和音を鳴らした時には感じるこのできない澄んだ響きであり、汚れの無い、霊的な音であるようにも思われます。

この曲から、まるで舞い降りてくるようにも感じられる夜空一面の星を見た時の印象や、雪や氷の結晶をそっと覗き込んだ時に感じられる密やかさを感じて頂ければ幸いです。

(内藤正彦)

<作曲：近藤 浩平（こんどう こうへい）>

1965年生まれ。作曲は独学。2010年ベルリン・ドイツ・オペラ<Klang der Welt Ostasien（世界の音・東アジア）>作曲コンクール第2位（室内楽）。2006年にはピアノ協奏曲が福村麻矢氏の独奏、パオロ・フェッラーラ氏指揮の関西フィルハーモニー管弦楽団によって初演された。2013年2月には、山田岳氏のギター独奏、松尾祐孝氏指揮のJSCMユースチェンバーオーケストラにより「ギター協奏曲『旅するギター』作品131」が初演された。江森國友氏、森永かず子氏の詩による歌曲や、野村誠氏の委嘱による鍵盤ハーモニカの為の作品などもある。左手のピアノのための作品は、智内威雄氏、館野泉氏のレパートリーとして演奏機会が多い。智内威雄氏によって委嘱初演された「海辺の雪～震災と津波の犠牲者への追悼 作品122」は、館野泉氏により2014年6月にベルリン・フィルハーモニー・カンマーミュージックザールにて演奏されている。ノルウェイのバスーン奏者、ロバート・ロネス氏の委嘱で作曲した「海辺の祈り～震災と原子炉の犠牲者への追悼 作品121」は様々な楽器のためのヴァージョンがありヴロツワフ歌劇場における国際ワグナー協会総会をはじめ国内外で頻りに演奏されている。「ヴァイオリンと打楽器の為の協奏曲 作品110」は、現音アンデパンダンで初演され、野村誠氏との企画コンサート「持ち運びできる協奏曲」にて再演、さらに2015年1月には、ブダペスト祝祭管弦楽団の日曜室内楽コンサートシリーズでハンガリー初演された。2016年9月にはアリゾナ州にて5日間にわたるKondo Festivalaが開催されフェニックスとテンピにて作品が集中的に演奏された。マザーアース、日本作曲家協議会、リコーダーJ P、PTNA 全日本ピアノ指導者協会から出版されている他、ほとんどの楽譜が、作曲者サイトから入手できる。日本作曲家協議会会員、日本現代音楽協会会員。<http://koheikondo.com>

<作曲：内藤 正彦（ないとう まさひこ）>

大阪音楽大学短期大学部専攻科作曲専攻卒業。作曲を田中邦彦、景山伸夫、藤島昌壽氏に師事。平成22年度関西現代音楽交流協会作曲賞受賞。関西現代音楽交流協会会員。

<ピアノ：大山 由紀子（おおやま ゆきこ）>

相愛大学音楽学部ピアノ専攻卒業。卒業後各種新人演奏会に出演。卒業前より関西歌劇団「魔笛」の練習伴奏。その後「イタリアのトルコ人」「ヘンゼルとグレーテル」毎日放送「サントリー1万人の第九」（本番指揮故山本直純氏）大フィル合唱団 ボーン ウィリアムス「海の交響曲」（本番指揮 井上道義氏）バッハ「ロ短調ミサ BWV232」（本番指揮 秋山和慶氏）

などの練習伴奏を務める。また国内外のサマーセミナーに参加し室内楽やソロレパートリーの研鑽を積む。声楽や器楽とのジョイントコンサート各種多数。2010年京都市社会福祉協議会から表彰される。2011年国民文化祭京都参加公演「魔笛」また近年は現代音楽作品と自身のレパートリーを組み合わせたコンサートを度々行っており、このスタイルは今後もライフワークとして続けていきたいと思っている。徳末悦子 弘中孝 智内威雄 阿部裕之の各氏に師事。関西現代音楽交流協会演奏会員 京都フランス歌曲協会会員

【演奏にあたって】大山 由紀子

数年前に当協会の作曲家、大澤弘之先生、近藤浩平先生、内藤正彦先生の作品を一夜で演奏させていただく機会がございました。

今回は春らしい近藤先生の作品「週末は晴れの予想」と以前から演奏してみたかった内藤正彦先生の「amore」を演奏させていただきます。

「週末は晴れの予想」は冒頭で週末前夜に明日は晴れるだろうと予想をしながら散策計画を立てた作曲者ご夫妻が朝目覚めて出かけられ、散策の途中に透明感のある川のせせらぎや木の葉の上の水滴を陽の光にかざしている様子などを想像しながら演奏したいと思います。

内藤正彦先生の「amore」は作曲者ご自身からの夜空一面の星、また、雪や氷の結晶というヒントに加えて GW に散策した京都のお寺の苔に光る水滴を思い浮かべながら演奏したいと思います。

特に汚れのない霊的な音、という示唆に大変感銘を受けており、今日皆さまに少しでも霊的な音をお届けすることができたら、と願いつつ演奏させていただきます。(大山由紀子)

ヤコポ ナーポリ 作曲

バリトンの為のヴォカリーズ：マサニエッロ哀歌

バリトンのためのヴォカリーズ曲。イタリア国立音楽院の卒業試験では、現代曲のヴォカリーズをプログラムに含めなければならず、この曲はバリトンであれば誰しもの通る1曲。マサニエッロとは1647年にナポリでスペイン帝国に対しての革命主導者トンマーソ・アニエッロ・ダマルフィの愛称。

アルベルト ペイレッティ 作曲

クアジモドの詩による3つの歌曲より：水没したオーボエ

クアジモドは1959年にノーベル文学賞を受賞したイタリアの作家。20世紀イタリアの最高の詩人といわれている。

この詩は1932年に出版されたヘルメス主義文学初期の作品で、複数のイタリア現代音楽の作曲家により曲がつけられました。

ディカプア&伊藤康英 作曲

0 SOLE MIO ～僕の太陽～

1898年に作曲された、フニクリフニクラと共に日本人の誰しもが知るカンツォーネ。ナポリ弁で歌われる。「僕の太陽」は作曲家の伊藤康英が「日本語でも高らかに歌い上げることのできる1曲が欲しかった」との思いから、原詩を純粹に直訳し、その日本語にメロディーと伴奏をつけたもの。イタリア語と日本語、両方とも同じ意味なのに、どこか何かが違うと思ったり違わなかったり。

<作曲：Jacopo Napoli（ヤコポ ナーポリ）>

1911年生まれ、1994年没イタリアの作曲家。ナポリ音楽院の作曲・ピアノ・オルガン科を卒業。イタリア国内の音楽院長を歴任、サンタ・チェチーリア音楽アカデミー校長、ローマ・オペラ座芸術監督。18世紀イタリアオペラの研究者としても有名。

<作曲：Alberto Peyretti（アルベルト ペイレッティ）>

サルデーニャ出身の作曲家兼指揮者。トリノ音楽院にて作曲・ピアノ・合唱・指揮を学ぶ。活動はヨーロッパ内に留まらず、日本に滞在した時期もあった。

<作曲：Eduardo Di Capua（エドゥアルド ディカプア）>

1865年ナポリ生まれ。ナポリのサンピエトロ音楽院にて学び始めるが、退学しヴァイオリニストとして父と一緒にヨーロッパ内への演奏の旅にでる。旅の中で作曲を始める。1917年ナポリ没

<バリトン：安田 旺司（やすだ おうじ）>

イタリア国立ローマ サンタ・チェチーリア音楽院声楽科卒業。1995年20歳で大阪音楽大学短期大学部音楽専攻科を中退し、イタリア ローマへ渡る。以後2005年まで11年間ローマにて研鑽を積む。2000年イタリア ヴィテルボ・バロック音楽祭にてオペラデビュー後、イタリア各地でオペラやコンサートに出演。帰国後は滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール専属歌手として2011年まで在籍し数多くの歌劇や演奏会に出演する。2010年2月に安田音楽制作事務所を開設し、滋賀県を中心に多くの自主制作コンサートを企画する傍ら、歌手としても活動を広げ、関西を中心に多くのオペラやコンサートに出演している。

<ピアノ：尾花 由佳（おばな ゆか）>

同志社女子大学学芸学部音楽学科演奏専攻卒業後、同大学《頌啓会》特別専修生として研鑽を積む。大学推薦により『関西の音楽大学・芸術大学生による新春コンサート』出演。ポーランドにてショパン音楽大学夏期ピアノセミナー受講。A. Dutkiewicz氏のマスタークラスを修了し、成績優秀者による修了演奏会出演。H. Deutsch氏によるドイツ歌曲伴奏の公開レッスン受講。在学中より声楽・器楽の伴奏を数多く手がける。現在、多くのソリストや合唱団などの伴奏ピアニストを務める傍ら、アンサンブルグループ le cocon として定期

的にコンサートを企画し開催するなど積極的に活動している。ピアノを古川由美、今井春子、阿部裕之、津々見富紗子の各氏に師事。尾花ピアノ教室主宰。

澤田 博 作曲

<木の歌 第3番>—独奏マリンバのための—(2017 作曲・初演)

独奏 marimba のための作品で、今回が初演。全体は7つの部分で構成される。

6 mallets による導入部の冒頭に、E-C-C-D-Es という基礎音列が低音域で提示されるが、これは全曲に活用される。2-tones と呼ばれる強弱2種の音が出る4 mallets による第1部は、異なる音勢、広い音域に互る運動性の発揮を主体としている。全体の中心となる Presto の第2部は、Scherzo の要素を持っている。音の反復と跳躍によるリズム変化の妙を工夫した。Lento の第3部では、6 mallets の tremolo により余韻のある響きを表出する。Coda では、次第に速まる tempo に合せ華麗な撥捌きを堪能できるよう表現を試みた。glissando と tremolo による brillante な演奏を展開する。

演奏者の相澤睦子さんには事前に現代 marimba 作品についての貴重な情報を頂戴し、作曲中にもいろいろと演奏上の問題についてご教示いただきました。助言に感謝申し上げますとともに、本日の演奏に期待しています。

今回の作品は、本協会初の試みとして「事務局が作曲会員の新作初演を前提として演奏会員の出演を募り、作曲会員がそれに応募する」という形で進められた事を付記しておきます。その第1号として名乗りを上げられ、今作を生み出すきっかけを作ってくださった相澤さんに改めて感謝の意を表します。

<作曲：澤田 博（さわだ ひろし）>

東京藝術大学音楽学部作曲科卒業、東京藝術大学大学院音楽研究科修了。宝塚音楽工房所長。関西及び東京において、歌曲・室内楽作品を中心に作曲活動を展開している。拡大された調性による現代的感性の表出を目指しており、特に歌曲においては大阪式アクセントによる作曲を長年試みている。1988年「深尾須磨子生誕100年音楽祭作曲コンクール」最優秀賞並びに優秀賞、1995年大阪文化祭賞奨励賞を受賞。関西現代音楽交流協会、国際芸術連盟各会員。

<マリンバ：相澤 睦子（あいざわ むつこ）>

6歳よりマリンバを始め、大阪音楽大学首席卒業。テレビ朝日『おはよう6』のマリンバ奏者を1年間勤める。その後渡欧してマリンバのメッカとして有名なドイツはシュトゥットガルト音楽演劇大学大学院で2年半在籍して研鑽を積む。その後も在独にてヨーロッパを中心に、有名フェスティバル、テレビやラジオなど幅広い活動をする。プラハ芸術アカデミーとミュンスター音楽大学で教鞭をとる。作曲家を題名にした数々のCDをリリース。

久保英子 作曲

「ハバネラとハンガリアンダンス」

1 楽章はハバネラで明るい感じにしています。ラテンの海をイメージしています。2 楽章はハンガリアンダンスでシンコペーションにのって、アップテンポで流れていきます。どちらも音楽の中心地からは離れていますが、周辺の音楽も魅力的だと最近つくづく感じます。構成としては、ソナタなどの様な複雑なものではなく、自然に出てきた通りに処理しています。

「猫のために」(ユーフォニアムとピアノ)

この曲は当時飼っていた愛猫のために書きました。2013年に亡くなりましたが、いつも側にいてくれて本当に可愛い猫でした。1 楽章は冬、ストーブの当たるカーペットの上で少々だるそうにまどろんで寝ている様子、2 楽章はなわばりに他の猫がいないか巡回している様子をマーチにして、3 楽章は家人の留守中にダンスの中身を引っ掻き回したりしていたずらする様子、4 楽章は月明かりの元デートをする様子をイメージしてみました。亡くなった猫がこの曲を気に入ってくれる事を願っています。

<作曲：久保 英子 (くぼ えいこ) >

大阪音楽大学短期大学部作曲専攻卒業。東京にて作曲グループ、Le Phenix のメンバーとして、又、その間前関西現代音楽交流協会でも作品発表。その後関西にて個展を開く。関西現代音楽交流協会会員。

<ピアノ：園田 文子 (そのだ ふみこ) >

ドイツ国立フライブルグ音楽大学及び大学院を最優秀賞を得て修了。在独時より、国内外各地でのコンサート、CD録音、FM放送、NHK番組等に出演。第30回国際芸術連盟最優秀新人賞、2006年 Music Center New York 主催国際ピアノコンクール入賞、2013年関西現代音楽交流協会演奏賞受賞。これまで渡邊康一郎、故T・ハザイ、A・ラツシンスキの各氏に師事し、五嶋みどり氏によるシェアリング活動、高校、短期大学等にて指導に当たる。日本演奏連盟、日本音楽教育学会、関西現代音楽交流協会、21世紀創作歌曲の会「まほろば」各会員。

<ユーフォニアム：川原 みきお (かわはら みきお) >

パリ高等音楽院サクソルン・ユーフォニアム科を日本人として初めて首席で卒業。アンテルコントランソリスト、J. McMANAMA、G. BUQUET 両氏のもとで特殊奏法を学ぶ。(財)ヤマハヨーロッパコンクール第1位。第6回ルーマニア国際音楽コンクール管楽器部門にて最高位を得てサントリーホールでの入賞者披露演奏会に招かれる。これまでに平野達也、川上統、山本裕之他、現代曲の初演活動を通しレパートリーの拡大に力を注ぐ。

<公式サイト <https://lartysm.wordpress.com/>>

大升 良美 作曲

「緋色を。」

共感覚という知覚現象があります。複数の知覚が無意識に引き起こされる現象で、「文字に色が見える」「味に形を感じる」「音に色が見える」など。

共感覚を知ってから色について考えることが増え、色がとても心身に影響しているのだと再認識しました。気分を色で表したり、レッスンの場でも、このフレーズはどんな色のイメージがする?と生徒に聞くこともあります。

今回は色に焦点を当て、「音に色が見える」という共感覚の逆の観点から、「色から音を」感じ取り、曲を作ろうと思いました。種類の違う色を組み合わせるのではなく、一つの色で。一番に思い浮かべたのは、大好きな「赤」でした。私の誕生石であるルビーの色でもあります。赤は色名の一つで、他にも紅、朱、丹、緋、などがあります。その中で日本の伝統色である「緋色(ひいろ)」からインスピレーションを受けました。緋色と一言で言ってもさらに細かくいくつか種類があり、現在の緋色の色調を指す別名スカーレット(鮮やかな黄みの赤)と呼ばれる緋色をイメージして作曲しました。曲の編成は、緋色と自分、一対一の対話ということでフルート独奏にしました。緋色から感じる情熱と力、勇気、包み込むあたたかさを感じていただけたら幸いです。独奏ですが、メロディーの根底に流れるハーモニーを意識しながら(あたかも聴こえてくるように)美しく、そして動きのある部分の音列やリズムを工夫しました。

<作曲&フルート：大升 良美（おおます よしみ）>

愛知県立芸術大学卒業。2013年リサイタル開催。

平成23年度関西現代音楽交流協会演奏賞受賞。現在、ソロ、室内楽、吹奏楽、オケと幅広く演奏活動する傍ら、中学、高校、専門学校等で後進の指導にあたっている。また、フルートカルテットのアレンジやオリジナル曲の作曲も手掛けている。

奈良県立高円高等学校、ESA音楽学院各非常勤講師。関西現代音楽交流協会員。

松浦 伸吾 作詩・作曲

『泡沫のみち』『緑』『絆うた』

2009年春から2011年夏まで、私は「泡沫（うたかた）会」という団体の代表者として活動していた。①“うた”の創作及びその普及、②“うた”と諸芸術の並置による空間創造の実験、③“うた”によるサロンの形成、という3つの主旨のもと、3回の定期公演（「うたはかける一～三」）と数回の特別公演を制作。6曲の“うた”を作った。そのうちの5曲については「旋律とことばにおける好ましい関係の研究」を進めるべく、（私にとって）苦手意識の強い作詩にもあえて取り組んだ。しかし第三回定期公演本番当日、想像を絶する天災から起こった会場の機能不全、そしてそこから始まる数々の壮絶な事情により、会の活動を休止せざるを得なくなった。私自身の「泡沫会」の活動に対するモチベーションが瞬時に全て失われてしまったことが大きかった。このことは私の人生において衝撃的な経験のひとつとなった。今思い返すと懐かしくも、なかなか厳しい感情も現れる。

休止から6年が経った。「泡沫会」の活動を再開したいとは思わないが“うた”の創作は取り

戻したいと願っていた。理由のひとつに、四季にまつわる“うた”の一曲をまだ作っていなかった、ということが挙げられる。『蓮池』(2011) —夏の曲。『幻』(2010) —秋の曲。『雪』(2010) —冬の曲。春の曲が無かった。今回の機会のために書いた『緑』を春の曲とし、これをもって四季の“うた”が完成する。もうひとつ、先に書いた「旋律とことばにおける好ましい関係の研究」の重要性を今なお私なりに認めている、という理由がある。旋律とことばという二つの異なる価値をどう“自由”に扱い、豊かに繋げるか。私の作曲上の大事な研究テーマのひとつである。

『泡沫のみち』は2009年に作曲。音楽について。

『絆うた』は2011年に作曲。人々の繋がりについて。

『緑』は2017年に作曲。本日が初演となる。様々な緑の姿について。なお作詩においては職場(洛南高等学校附属中学校)の同僚である仮屋賢一氏(俳人—俳句雑誌『奎』編集長—、数学科講師、作編曲家)に様々な助言を頂いた。

<作詩・作曲：松浦 伸吾 (まつうら しんご) >

大阪音楽大学大学院修了(作曲)。作曲を近藤圭と久保洋子の各氏に師事。第71回日本音楽コンクール作曲部門第2位、第2回国際アルケマ作曲コンテスト第1位、ISCM(国際現代音楽協会)「世界音楽の日々2017」バンクーバー大会入選等。(財)ロームミュージックファンデーション音楽特別在外研究生、大阪音楽大学音楽博物館研究技術員等を経て現在、大阪音楽大学、洛南高等学校附属中学校、各講師。関西現代音楽交流協会、(社)日本作曲家協議会、日本音楽教育学会、日本音楽表現学会、各会員。

<http://shingo-matsuura.net>

<http://ateliermaido.com>

<テノール：松原 友 (まつばら とも) >

東京藝術大学卒業。同大学院修了。ロームミュージックファンデーション、野村財団奨学生としてミュンヘン音楽大学大学院、ウィーン国立音楽大学を卒業。第81回、83回日本音楽コンクール第3位、岩谷賞(聴衆賞)、第14回松方ホール音楽賞、第71回文化庁芸術祭音楽部門新人賞受賞。これまで数々のリサイタル、オペラ、オラトリオの公演に携わり、ルールトリエンナーレ、NHKリサイタルノヴァ、サイトウキネンフェスティバル、小澤征爾音楽塾、PMF音楽祭等に出演。同志社女子大学、相愛大学、大阪音楽大学、武蔵野音楽大学、大阪府立夕陽丘高校音楽科、各非常勤講師。東京二期会会員。

<ピアノ：長澤 圭介 (ながさわ けいすけ) >

06年大阪音楽大学音楽学部卒業。06年・08年、ドイツ・カムとミュンヘンにて行われたドイツ歌曲の演奏と解釈のための国際夏期講習会に参加。終了演奏会に出演。07年秋より渡独し主に歌曲伴奏法について研鑽を積む。第17回友愛ドイツ歌曲コンクール優秀共演者賞、第1回日本歌曲伴奏コンクール第3位など受賞。これまでにピアノを小森谷泉、阿部裕之、堺多恵、W. ハウツィッヒの各氏に、伴奏法をF. シュビンハンマー、岡原慎也の各氏に師事。

川合 清裕 作曲

ピトレスク -寺院- ～笙、チェロ、チューバのために～

この作品は、笙をフィーチャーすることに重きをおいて作曲しました。

笙が伝統的に 430Hz でチューニングされる点、ピタゴラス音律で調律される点、複雑な運指は伝統的な合竹(あいたけ…雅楽で伝統的に用いられる 11 種類の和音)の演奏と密接な関係がある点など、この楽器がもつ特徴や制約を活かしながら、作品の全体像を組み立ててゆきました。

中でも笙が 430Hz である点は私にとって大変興味深く、また今日的な音楽を表現するのにぴったしな要素だと感じたため、そこに焦点をあて、笙を 430Hz、チェロの D 線 A 線を 442Hz、G 線 C 線を 430Hz の A と D にするというかなり特殊なスコルダトゥーラ、チューバを 442Hz にそれぞれチューニングし、通常のチューニングでは得難い微分音和声の作品に仕上げました。

そもそもの編成が特徴的ですが、これは、ピタゴラス音律でチューニングされる笙の、完全 5 度の堆積の美しい響きを活かそうという考えのもと組まれたものです。

また、曲中ではドビュッシーの「沈める寺」が引用されます。

19 世紀後半～20 世紀にかけて西欧で流行したジャポニズムの影響を感じさせる「沈める寺」を、21 世紀を生きる日本人である私が引用して邦楽器と西洋楽器のアンサンブルという編成で作曲し、フランス語のタイトルを名付ける。譜面を見ると現代的に見えるが、響き自体は聴き易く西洋音楽のテクスチュアの流れをひいている、一方で、伝統的な合竹の響きを使用したりもしている。

入り組みすぎて、時代も国籍も曖昧になってしまっていますが、この曖昧さこそ、グローバル化が進んだ 21 世紀的な芸術観なのではないか、そして、日本的な、あるいは現代的な“引用の芸術観”なのではないか、などと考えたりもしています。

ピトレスク (pittoresque) とは、フランス語で「絵画的な、絵のように美しい」程度の意味をもつ言葉です。聴く人の脳裏に、寺院の絵画的イメージが立ち現れることを願って名付けました。

私にとっては、初めての邦楽器を含む作品です。今回、この機会を提案してくださった作曲家兼笙奏者であり、私の大学の先輩でもある立木さんには心より感謝しています。

<作曲：川合 清裕 (かわい きよひろ) >

大阪音楽大学音楽学部作曲学科作曲専攻卒業。卒業時に褒賞として優秀賞を授与される。これまでに作曲を高昌帥、永田孝信の各氏に、ピアノを土井緑氏に師事。第 32 回現音作曲新人賞受賞(弦楽四重奏作品)、第 9 回全日本吹奏楽連盟作曲コンクール 1 位(2017 年度課題曲 V 番)、第 8 回 JFC 作曲賞コンクール、第 3 回洗足現代音楽作曲コンクール B 部門(鍵盤楽器作品)各入選。2016 年度関西現代音楽交流協会作曲賞受賞。関西現代音楽交流協会会員。

<笙：立木 貴也（たちき たかや）>

大阪音楽大学音楽学部作曲学科作曲専攻卒業。

作曲とピアノを久保洋子、土田英介、ピアノを茨木節子、笙を林絹代の各氏に師事。

笙奏者、作曲家、伴奏ピアニストなど、その活動は多岐に渡る。

現在、天王寺楽所雅楽練習所練習生。

<チェロ：谷口 晃基（たにぐち こうき）>

福岡県北九州市出身。

10歳よりチェロを始める。これまでに加治誠子、上村昇の各氏に師事。京都市立芸術大学を卒業。琵琶湖フィルハーモニー管弦楽団とドヴォルザークのチェロコンチェルトを共演。草津夏季国際アカデミーにてヴォルフガング・ベッチャー、タマーシュ・ヴァルガのレッスンを受講。現在、プロオケへの客演や室内楽を中心に関西で活動中。

<テューバ：藤田 敬介（ふじた けいすけ）>

愛媛県出身。愛媛県立北条高等学校、大阪音楽大学を経て現在大阪音楽大学大学院音楽研究科器楽学科管弦打研究室修了。

同大学卒業演奏会、ヤマハ新人演奏会、愛媛新人演奏会に出演。

これまでにテューバを山内啓明、潮見裕章、室内楽を吉田治人、森下治郎、木村寛仁各氏に師事。現在、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団コア・メンバー。大阪音楽大学演奏員。

岡田 正昭 作曲

H u m o r e s k e

曲名のとおり空想的な五つの組曲からなっています。

- 1 prelude----- 鐘の音
- 2 scherzo----- 逡巡
- 3 intermezzo---- 白い月
- 4 sonatine----- 形
- 5 finale----- 自由

響きのアプローチとして完全4度、それから派生する短7度と複調との組み合わせからなる音の集合体が根幹となっています。

リズムは圧縮と膨張を行き交う。

今回のしんどい演奏を快諾して頂きました江口舞さんに感謝を申しあげます。

<作曲：岡田 正昭（おかだ まさあき）>

大阪音楽大学大学院修了。

「日本作曲家協議会」「国際芸術協会」「日本童謡協会」等会員。

音楽之友社より「岡田正昭歌曲集」他合唱曲など出版。

TIAA 全日本作曲家コンクール連続入賞、牧野由多可賞大賞、洗足現代音楽作曲コンクール、トロンボーンピース・オブ・ザ・イヤー2014作曲賞、日本歌曲コンクール、東京国際歌曲コンクール入賞等。

近年、室内オペラシリーズを毎年発表し、演奏、出版を続けている。

<ピアノ：江口 舞（えぐち まい）>

大阪音楽大学音楽学部ピアノ専攻卒業。

2011年第21回兵庫県学生ピアノコンクール銅賞。

2014年第24回ペトロフピアノコンクール審査委員賞。

2016年第10回全日本芸術コンクール第3位および同全日本芸術フェスティバル奨励賞受賞。

2017年久保惣美術館アイホールにてリサイタル。

これまでにピアノを麻生真紀、木村綾子、藤井快哉に、作曲を岡田正昭の各氏に師事。

【関西現代音楽交流協会について】

関西現代音楽交流協会は現代音楽を志す人達の交流の環を広げ、その活動を活性化することにより音楽文化の普及と発展に寄与することを目的として1986年に設立されました。

主に関西を音楽活動の中心とした者が会員となっており、現在その数は作曲会員・演奏会員合わせて96名です。これまで毎年春・秋に、作品発表と演奏活動の場である演奏会「現代音楽作品の夕べ」を、52回主催してきました。

公式ホームページ <http://kmma.web.fc2.com/>

【会員募集】

関西現代音楽交流協会では、現在作曲会員・演奏会員を募集しています。入会すると本会が主催する演奏会「現代音楽作品の夕べ」に出品・出展することができます。ご関心のある方は、本演奏会終了後のレセプションにて会員までお問い合わせください。